

## 第 101 回監視・評価検討会 本日の確認事項

原子力規制庁

### 議題1. ALPS処理水の海洋放出に係る実施計画変更認可申請の審査状況

- ・ 不信感を払拭するために透明性・客観性を保った分析を行うことは重要。一方、分析者が多いことから、分析を始めるに当たって、各者の認識を合わせ、その共通認識の下、それぞれの役割・目的に沿って分析を実施すること【対規制庁、対東京電力】(井口委員)
- ・ ALPS処理水の希釈率について40倍ではなく100倍以上を確保することを確認した(田中委員)
- ・ パブコメ回答において「検査において確認する」としたものについて、引き続き、規制庁においてしっかり対応すること【対規制庁】(高坂オブザーバー)

### 議題2. 今後の施設定期検査の実施方法に係る検討

- ・ 資料2-1で示された施設定期検査の「今後の方向性・今後の進め方」に異論はない。対象となる設備やバウンダリの定義・範囲等については、今後、検討・相談したい【対規制庁】(東京電力)
- ・ バウンダリ機能についてはしっかりと守るよう対策を講じて欲しい(蜂須賀委員)
- ・ 1Fとしてのリスクに応じた重要度分類を再整理する必要がある。設備の設計・検査を考える上で、全体の重要度を定めて方針を示すべき【対規制庁・対東京電力】(高坂オブザーバー)
- ・ 施設検査対象となっていない設備・機器(コンテナや長期に使用する仮設設備等)についても、事業

者において適切に保守管理すること(高坂オブザーバー)

### 議題3. 3月16日の福島県沖地震の影響

- ・ 剛構造の設備に対して3.16地震の影響がないとしているが、はぎとり波の50Hz周辺においても $1/2S_s$ を超過しているため、その根拠を示すこと(規制庁)
- ・ 既設設備の耐震評価については、前倒しも含め早期に評価結果を示すこと(伴委員・規制庁・高坂オブザーバー)
- ・ 新設設備の評価について、波及的影響( $S_s900$ )を評価している設備は評価対象外としてるが、波及的影響評価と機能維持評価の内容は異なることから、今後の審査において、個別にその内容を比較した上で除外できることを説明すること(「新設B<sup>+</sup>クラスの対応方針」における「評価」内容が「 $1/2S_s450$  機能維持」と異なる場合は、その差異を明確にすること)(規制庁・山本委員)

### 議題4. 中期的リスクの低減目標マップの進捗状況

- ・ 耐震クラス分類のための線量評価に関して、早期に分類を確定させ議論を前に進めるために、インベントリ評価などについては保守的な評価も含めて合理的な評価のあり方を検討すること(規制庁)
- ・ 分析計画(施設・人材含む)については9月中に説明すること(規制庁)
- ・ タンク内未処理水のうちDエリアの未処理水の検討内容については8月頃に説明する(東京電力)

- ・ ゼオライト等の回収について集積作業の検討状況を10月頃に説明する(東京電力)
- ・ 例えば、廃棄物の管理が全体の廃炉作業に悪影響を及ぼさないようにするなど、個別案件の管理だけにとらわれず、1Fの施設全体を俯瞰して対応が遅れないようにすること(田中(知)委員)
- ・ 課題解決に向け、規制庁と東京電力はしっかりとコミュニケーションを取ること【対規制庁・対東京電力】(山本委員・蜂須賀委員)
- ・ 廃炉作業は避けては通れないので、東京電力は組織力を上げ、しっかり取り組むこと(田中委員)
- ・ 本日説明した現状の取り組み状況や約束した工程等については参考資料1「リスクマップを踏まえた検討指示事項に対する工程表」に反映すること(高坂オブザーバー)

## 議題5. その他

### (1) 増設雑固体廃棄物焼却設備の運転状況

- ・ 本トラブルによる運転停止期間及び運転停止に伴う廃棄物管理の全体計画に与える影響などを示すこと(規制庁)

### (2) 高線量SGTS配管撤去の進捗状況

- ・ 切断装置の信頼度向上対策の具体的な検討内容を示すこと(規制庁)

・本資料は、検討会において認識共有した内容をもとに作成し、ホームページに掲載しています。  
なお、会議の進行と同時並行で作成しているため、正確な表現ではない部分があります。